

隨泉寺寺報

平成28年（2016年） 8月号 第552号

Tel.082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

お盆会法要

講師 住職 自修

講題 『お盆を迎えて』

☆ お盆とは正式には【盂蘭盆】といい、古代のインド語の一つであるサンスクリット語の「ウランバナ」を漢字にあてはめて読まれた言葉です。お釈迦様の弟子の目連は、母親が死後の世界で餓鬼道に堕ちて飢えに苦しんでいる姿を見て、お釈迦様に母を救う方法の教えを請いました。その教えに従って、布施や供養を僧侶や多くの方々に施したところ、その功德により 母親は極楽浄土に行くことができました。それ以来、目連が多くの人に施しをした7月15日は先祖を思う大切な日となったと伝えられています。浄土真宗では、亡くなられた方はお浄土に往生して仏さまになられて、還相回向のおはたらきで、縁のある方々を浄土へ導くお働きをしてくださると受け止めます。大切な方のご恩を偲ぶ大事なご縁といたしましょう。

8月の法座予定

- 8月 2日.....本部役員会
- 8月 11日午前8時より.....掃除 瀬野川団地・桑原
- 8月 15日朝席午前10時より.....お墓のお勤め お盆会法要
- 8月 15日昼席午後1時半より.....お盆会法要
- 9月 2日午後5時より.....門信徒会本部役員会

平成28年初盆を迎えられる方

	俗名	法名	命日	行年	地区
1、	鼓 シゲノ	釋明正	H27. 8. 5	95 歳	平原上第 2
2、	和田 修	釋修真	H27. 8. 7	68 歳	他所
3、	沖野 茂	釋清茂	H27. 8. 30	83 歳	出宮
4、	佐藤 よ志子	秋月清照信女	H27. 9. 13	97 歳	他所
5、	田中 伸昭	釋淨伸	H27. 9. 13	64 歳	平原西
6、	松本 涼子	釋清涼	H27. 9. 25	80 歳	中須賀
7、	坂根 ミサヨ	釋尼榮専	H27. 10. 13	98 歳	望ヶ丘
8、	木村 博光	釋博信	H27. 11. 13	74 歳	平原上第 2
9、	山中 寿子	釋広法	H27. 11. 25	87 歳	長者原東
10、	尾崎 たまゑ	釋淨珠	H27. 12. 3	94 歳	中須賀
11、	相木 一人	釋一信	H27. 12. 6	81 歳	高部
12、	長谷 翔太	釋淨翔	H27. 12. 8	24 歳	他所
13、	門前 恒	釋恒信	H27. 12. 19	42 歳	長者原東
14、	永留 八重子	釋清明	H28. 1. 2	91 歳	平原上第 2
15、	芳本 和子	釋清和	H28. 2. 1	86 歳	平原上第 1
16、	杉田 勝子	釋淨心	H28. 2. 7	72 歳	井原
17、	吉永 テルミ	釋尼貞観	H28. 2. 7	95 歳	出宮
18、	出口 弘司	弘誓院釋心徹	H28. 2. 11	87 歳	出宮
19、	芳本 輝久	釋清輝	H28. 2. 26	90 歳	上平原第 1
20、	竹本 則之	釋超証	H28. 3. 8	85 歳	長者原東
21、	西本 泰志	釋淨泰	H28. 3. 26	45 歳	平原東
22、	白池 豊三	釋豊淨	H28. 3. 27	86 歳	平原上第 1
23、	宮原 堂	釋宝堂	H28. 3. 29	81 歳	出宮
24、	徳廣 賢子	釋願心	H28. 4. 3	96 歳	他所
25、	梅河内龍雄	釋龍法	H28. 4. 16	88 歳	望が丘
26、	井原 義頼	釋義正	H28. 5. 22	75 歳	他所
27、	久保 イトエ	釋良清	H28. 5. 25	87 歳	平原上第 1
28、	中崎 勇	釋勇勝	H28. 5. 26	83 歳	望ヶ丘
29、	山村 厚司	釋親厚	H28. 6. 13	79 歳	中須賀
30、	坪井 正信	釋正智	H28. 6. 19	85 歳	平原上第 2



—浄土真宗一口法話— 8月

「生きているという事は決して私の力ではないのだ」 (高松信英)

児童念仏奉仕団に参加された皆さん、ようこそ本願寺へお参りに来てくださいました。

今日は朝早く起きて、この御堂でご表にお正信偈のお勤めができました。眠かたり、脚が痛かたりされたかもしれません。でも、素晴らしいことなのです。

本願寺では、何百年も前から、御門徒の方々が、皆さんと同じように、親鸞さまの作られたお正信偈を唱えてきました。お正信偈には、いのちについて、一番大事なこと、阿弥陀如来さまのことが書いてあるからです。また、暑さの中、皆さんで本願寺のお掃除をしてくださり、有り難うございました。



阿弥陀如来さまのお話を聞き、体を動かして、お寺を美しくすることは、お参りの人々に喜んでいただけるだけではなく、私達一人ひとりのいのちの大切さを学ぶことにもなります。

お掃除をすると、どんなことがわかりますか。誰も気付かないような所、石の隙間にも、精一杯生きている草や虫がいて、何百年も前にお寺を建てたひとのこともしのばれます。今見える物、役に立つ物だけが大切なわけではありません。本当は、すべての物事が、支え合い、世の中ができています。



阿弥陀如来さまは知らない人間は一人もいない、でも、人間はそのことを忘れて、お互いに争っていると心配していらっしやいます。いつも私のことを心配して下さっている阿弥陀如来さまのことを忘れず、朝夕、阿弥陀如来さまにご挨拶しましょう。

水はつかめません すくうもの 心もつかめません 汲みとるもの



「こころの味」といっても、すぐにはわかってもらえないかもしれませんが、次の、熊本の女子高校生の作文をご覧ください。

私が「母の日」を意識しはじめたのは、小学校四年のときでした。一週間百円の小遣いの中から五十円出して、お母さんの大好きな板チョコをプレゼントしたのがはじまりでした。あのときはきまりがわるくて、お母さんのエプロンのポケットに放りこむなり、にげるようにして布団にもぐりこみました。生まれてはじめて、お母さんにプレゼントしたのでした。あんなものでも喜んでくださるかしたら、誰かが聞いたら笑うんじゃないかしら、そんな、喜びとも不安ともつかない複雑な気もちのまま、いつか私は深い眠りに落ちていきました。



翌朝、目をさますと、私の枕もとに、一枚の手紙と、板チョコの半分が銀紙につつんでおいてありました。「ルリ子、きのうはプレゼントどうもありがとう。お母さんね、これまで、あんなおいしいチョコレート、食べたことがなかったよ。こんなおいしいもの、お母さんひとりで食べるのもったいなくてお母さんの大好きなルリ子にも、半分たべてほしくなりました。どうか、これからも、元気で、そして素直なよい子になってくださいね」 読んでいるうちに、涙がこみあげてきて、あのときほど、お母さんの子に生まれてきたことを誇りに思ったことはありませんでした。あのときの感激は、生涯、忘れることはないでしょう。

このお母さんが「お母さんね、これまで、あんなおいしいチョコレート食べたことがなかったよ」といわれるチョコレートの味は、ただの「チョコレートの味」ではありません。ルリ子さんの「こころの味」です。

このお母さんは、この「こころの味」をちゃんと受けとめ、「こころの味」のすばらしさを「こんなにおいしいんだもの」と、またわが子に返してやっていただきます。そして、この子も、涙をこみあげさせながら、生涯忘れることのできない感激をもって、お母さんの「こころの味」を胸に刻みつけているのです。